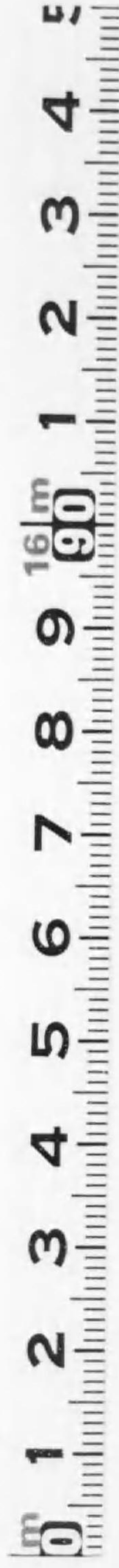


始



同人協會發行

同人協會發行

概觀明治文學史

同人協會編



32

定價
價料
十二
錢錢

同人協會

特110

862.



同人協會同人編

大正
15. 2. 23
内交

兒童健康相談
兒童疾病診療

毎月一回御家庭に於ての巡回兒童相談御
希望の方は御面談の上日時を定めます

大阪市東區淡路町三丁目(市電堺筋線五町停留所下車)
船場ビルディング内(白木屋呉服店北へ二ツ目辻西へ一丁半)

竹村兒童相談所

電話本局二七五〇—二七五五

時	間
毎	日
午後	五時より
午後	九時まで
日曜	日
休	診

特110

862



概觀明治文學史

同人協會同人編

大正
15. 2. 23
内交

兒童健康相談 兒童疾病診療

毎月一回御家庭に於ての巡回兒童相談御
希望の方は御面談の上日時を定めます

大阪市東區淡路町三丁目(市電堺筋線瓦町停留所下車)
船場ビルディング内(白木屋呉服店北へ二ツ目辻西へ二丁半)

竹村兒童相談所

電話本局二七五〇——二七五五

時 間
每 日 午後五時より
午後九時まで
日曜日 休 診

序

新しい目を以つて今一度我が日本を觀やうといふ
傾向が盛になつて來た。これは數年來私達のよく主張
して來たところであると思ふ。その一
端としてわれわれもこの小冊子を出す。そしてこれを
編むには宮嶋、藤崎、島村諸氏の著書を参考とした。
殊に島村氏に負ふところが最も多い。

一九二六、一

概観明治文學史

明治文學曙光期

一口に明治文學といつても、それは四十五年間に亘り、しかもその間眼まぐるしい變化と推移を経たのであるから、一括して述べることは困難である。

けれどその四十五年間のうち、眞に明治文學と名づけ得るものの存在したのは三十年を出でない。彼の西南戦争で維新以來の兵亂が一段落を告げるとともに、明治十年以後の日本ははじめてや、安堵

した状態に入つて、ぼつぼつ平和文明の準備を始めた。そしてその明治十年から二十年に及ぶまでの十年間の後半期即ち十五六年頃からはじめ「新文藝の準備時代となるのである。

明治十六七年頃までを渾沌時代とでもいふことが出来やう。徳川期の文學の餘脈がいよいよ墮落して、假名垣魯文一派の戯作によつて續いてゐた。それが彼の外山正一、井上哲次郎等諸家の新體詩、坪内春のや、織田純一郎、藤田鳴鶴等諸家の翻譯などを背景として、漠然たる形で明治文學の運動が萌して來た。それがはじめて自覺を伴つた革新運動になつたのは即ち坪内春のやの「小説神髓」「書生氣質」の出た明治十八年である。

それと前後して末廣鐵腸の政治小説「雪中梅」が明治十九年に出た。又山田美妙齊の言文一致運動がその以前から出現したり、又後の硯友社の萌芽となつた「我樂多文學」が編纂されたりして、明治文學の發生期を賑はした。

それが明治二十年、長谷川二葉亭が小説「浮雲」を出すに及んで、さきの坪内氏の著作とともに最も有意義、有力の基礎を据えるに至つた。坪内氏は當時最も多く英文學の感化を受けた人で其の「小説神髓」に於て寫實主義を唱導し「書生氣質」に於てこれが實例を示した。だから根本的な新運動はその源を英吉利文學から受けてゐると見て差支へあるまい。これに對して二葉亭は一面ロシア文學の

影響を受け、一面に坪内氏の主張に刺戟せられてあらはれたものであり。即ち當時の新文學の發端には英文學と露文學との後ろだてがあつたのである。この点に於て明治文學のはじめはわが特發といふよりも矢張歐洲文藝の刺戟にまつところが多かつた。

明治文學建設期

それで今假りに明治二十年前後を明治文學の發端期と名付くれば二十年から三十年迄の十年間を明治文學の建設期であり、また寫實期といふことが出来る。それは發端期に於て唱へられた主張がさまざまの過程を経て遂に一變せんとするまでの時代である。そしてこの期の始めに於て最も注目すべき事實は彼の徳富蘇峰

等の民友社の創立である。これが一面には同氏の他の著書と相まつて當時の青年に一種の自覺、若しくは刺戟を與へ青年の精神活動の端緒をなすと共に雑誌「國民の友」がそれらの青年と離るべからざる基礎に立つところの新文學の舞臺を供給した。そしてこれ等の一團の思想の傾向は要するに歐州を主とするものであつて、單に思想のみでなく文章までも歐文直譯の脈を多分に取り入れて來た。この民友社一派の歐州的傾向の背後には彼の新島襄氏等の同志社及びキリスト教の影響が大なる力となつ横はつてゐた。

かくの如く民友社の一團といひ、又坪内氏等の新文學運動といひ自ら根底を歐洲の思潮に托してゐる。のみならず當時

の世間も政治上、社交上種々の方面に歐洲の模倣が盛に行はれた。世人が呼んで歐化時代と言つたのは即ちそれである。所謂鹿鳴館時代、夜會時代である。そしてこれら寧ろ外形的な歐化主義は一方には反動を呼び起して三宅雪嶺等の政教社一派、その他から國粹保存主義が唱へ出された。併し當時の國粹保存主義は直接文藝上の新運動を左右するには至らないで、寧ろ政治上、社會上の問題に止まつた形がある。

けれども文藝の方面に於ても必ずしも歐洲の思潮のみが永くその源ではなく、この頃からして元祿文學の復興といふことが唱へられて來た。殊にその最初にその中心となつたものは西鶴で、後には近

松が繼いた。その西鶴熱勃興に関しては淡島寒月などが最も興つて力があつた。しかしそれが新文學の源をこれによつて開かんとする明かな自覺から來たといふよりは、寧ろ徳川末の馬琴以下の拾收すべからざる空想文學に飽きた目には自ら小説神髓が唱へた寫實といふ精神のある所を面白く感じた爲めであらう、結局は寫實の大勢に合するものとして西鶴は勢力を得たのである。それは兎に角、西鶴熱によつて、明治の新文學は色ごりを變へて來た。

かやうにして歐洲的傾向と西鶴趣味との結合した所へ種々な新しい作家が出た。その中心は尾崎紅葉を主とした硯友社一派である。又それと相對して幸田露伴

も出て来た。然しその傍には西鶴の影響から放れて純粹に歐洲文藝の感化の下にある、「初戀」を書いた矢崎嵯峨のや、「歸省」を書いた宮崎湖處子「細君」を書いた坪内逍遙「胡蝶」を書いた山田美妙齊「舞姫」を書いた森鷗外の諸氏及び鷗外二葉亭、森田思軒等の翻譯物がある。

硯友社中心のものでは彼の月刊小説集「新著百種」が主となつて石橋思案、江見水蔭、巖谷小波、廣津柳浪、川上眉山大橋乙羽等が競ひ起つた。紅葉の「色懺悔」その他有名な作もこの中から出たし露伴及びこれ等の作家と全く系統を異にして寧ろ徳川期末の系脈を傳へた如き觀ある饗庭篁村の作も亦この中に收められた。「新著百種」「都の花」「國民の友」は

新文學の主な舞臺であつた。それから引續いて鷗外の「しがらみ草紙」逍遙の「早稻田文學」等が純粹の文藝評論の雜誌として現はれた。

一方に於て斯の如く種々な作が現はれ又舞臺が廣まると共に當然その反影といふべき評壇も面目を新にして來た。明治文壇に於ける新批評の端緒は先に述べた「小説神髓」及び高田早苗氏の「書生氣質」評等であるが、次いで初期の批評家として石橋忍月、内田不知庵、齊藤綠雨等がある。

深刻味の要求

いまこれ等寫實期に於ける文壇の大體の形勢を考へて見ると、その所謂寫實主義は兎もすれば淺薄な客觀主義、外形主

義に流れて部分的な寫實はあつても全體の上に技巧派空想派の形跡が著しく現はれ、眞の近世的現實主義の生命には遠いものであつた。

そこで、早くもこれに對する不満足の声が一方に起らざるを得なかつた。即ちその空想的なものに對しては、もつと正確な寫實が欲しいといふ要求が起り、その淺薄な外形的寫實に對しては、深い、ある物が欲しいといふ要求になつてあらはれて來た。

そしてこれ等の要求が生み出した現象は、即ち觀念小説、深刻小説、社會小説の如きものであつた。泉鏡花の「夜行巡查」廣津柳浪の「今戸心中」内田不知庵の「暮れの二十八日」等はその例である

その他樋口一葉の感傷的作風及び後藤宙外等の心理的作品等も、みなこの意義ある深さある作品の要求に應じて現はれたものと見てよい。そしてこれ等は何れも明治二十八九年から三十年三十一二年に渡つた事柄である。

なほ前期の作者としては露伴の如きは稍々この後期の要求に近い作風を追うてゐた、め硯友社一派の作家よりも長い生命を持つてゐるやうに見られた。その他には當時の所謂新進作家として紅葉門下には鏡花の他小栗風葉、徳田秋聲、柳川春葉等が出て、所謂早稻田派では後藤宙外、水谷不倒、伊原青々園、五十嵐巴十金子筑水、綱島梁川、島村抱月、等が出て、赤門派と呼ばれた方面には高山樗牛

姉崎嘲風、大町桂月、佐々醒雪、武島羽衣、塩井雨江、土井晚翠、上田敏、笹川臨風、登張竹風、樋口龍峽等が出た。その他に小杉天外、田村松魚等がある。又赤門派の人々は特に「帝國文學」を起し早稻田派の人々では「新著月刊」を起し博文館では「太陽」を出した。それから少し遡つて明治二十六七年頃には北村透谷、平田秃木、島崎藤村、馬場孤蝶、戸川秋骨等が寄つて雑誌「文學界」を出し最も多くこの意義ある文學、深さある文學を要求する聲を専ら感情的哲學的方面から代表してゐた。

要するに明治三十年前後の三四年は、次の時代を呼び起す過渡期、動搖期といふことが出来る。

そしてこの次に彼の日清戦争は明治維新以來の日本が物質的にも精神的にも貯積して來た力を試す試金石であつた。これに依つて日本は外國に對してはその眞價を示し、國民には國民的自覺を促すに至つた。

次で三十年から三十七八年期に入るのである。

個人主義、本能主義、見神主義

この期は、大體に於いていま言つた意義ある深さある何物かをさまざま探し求めた時代である。彼の紅葉の小説「金色夜叉」の如き、高山樗牛、登張竹風等がニーチェから得て來た個人本能主義に對する評論の如き網島梁川の見神論の如きそれを遺憾なく物語るものである。

勿論次きの時代、即ち四十年期以後の文壇に於ても、個人主義、本能主義、見神主義が直ちに深き意義として當時の文壇を満足させる譯には行かなかつた。そして遂に彼の自然主義に往つたのである

過去二十年の回顧

この時代以後明治の文壇は殆んど面目を一新するに至つた。そこで過去二十餘年の間の文壇の重なる事頂を一見して置く必要がある。

第一は文章のことである。これは前に述べた如く、美妙齋、二葉亭等の言文一致と、蘇峰、鷗外、思軒等の翻譯的傾向と、逍遙、紅葉等の俗文的傾向と種々相結合して一時は雅俗折衷體といふ如きものが文章の中心文體となつてゐた。けれ

どそれがだんだん言文一致に最後の勝利を占められて、今日では日本の文體の基礎は言文一致、若しくは口語文と呼ばれるものになつたと言つて差支へない。

第二には通俗小説と呼ばれるもの、家庭小説と呼ばれるものに就て一言すればそれは思軒門下であつた村上浪六の「三日月」が明治二十四年頃に出た。村井弦齋の「小猫」もそれと前後して出た。次いで黒岩涙香等の探偵小説、徳富蘆花中村春雨、菊池幽芳、柳川春葉等の家庭小説、塚原澁柿園、渡邊霞亭その他の歴史小説、到底明白には分類することのできない幾多の作品と作家がある。

第三には脚本、これは彼の古河黙阿彌が唯一の過去から現代への橋渡しであつ

た。それでも彼は矢張り明治二十三四年頃までは劇壇の中心に立つて、左團次、菊五郎の爲めに「村井長庵」以下幾多の白波物などに江戸時代の世話寫實を見せ團十郎等のためには所謂活歴物を書いてたが、その默阿彌物にも時代の要求で寫實的精神は這入つてゐた。それが「吉野拾遺名歌譽」を書いた依田學海、「春日局」その他を書いた福知櫻痴等を通じて益々活歴史的寫實に趣いた。傍ら坪内逍遙等の史劇「桐一葉」「牧の方」等はこれ等の中に一層深い精神を出さうとして現はれて出た。又一方では所謂今日の新派劇を成す所謂壯士劇が川上音次郎氏等によつて起された。けれどその脚本には文藝上論すべきものはなく、ただ幾何か

の翻譯劇等に多少研究的意義を見出し得るのである。尙逍遙の舞踊劇運動を忘れてはならぬ。

詩に就ては、彼の外山正一等の新體詩山田美妙齋等の言文一致を應用した新體詩等によつて、形式上の革新が行はれ、一方落合直文等の國學復興運動に伴ひ、塩井雨江、武島羽衣等の優雅な古調を主としたものが一時勢力を得、引續いて土井晚翠等の漢語派に助けを求めることの多いものが行はれなどして、いろいろな變遷を経た。次いで島崎藤村等一派の洋詩から得た感化、尙繁野天來等の俗謠から思ひ付いた試風、それから薄田泣菫等の古語復活及びそれに新しい人生觀を托した如き詩風等があつて、上田敏、蒲原

有明等の所謂象徴詩に及ぶまでが丁度明治四十年期の前後になつゐる。

短詩としては、和歌に落合直文以後の新傾向を追ふて遂に興謝野鐵幹、晶子等の明星派と呼ばれるものが新しい傾向の中心となつた。傍ら佐々木信綱等の温和な折衷的歌風、御歌所一派の舊歌風も行はれてゐるが、要するに和歌壇も眞の生命あるものは新派から發動してゐる。

俳句は、彼の正岡子規が明治二十三四年に於て始めて新機運を作つて所謂日本派が天下を風靡して内藤鳴雪、河東碧梧桐、高濱虚子、佐藤紅緑等を出した。その他紅葉、小波、岡野知十、角田竹冷等の秋聲會派は日本派に對して温和な雜興的な句風を保つて一派をなしてゐる。

自然主義の時代

明治三十七八年から四十五年に亘る時代は一括して自然主義期といつて可い。詳しくいへば日露戦争以後思想界が前に述べた如く何等かの深き意義をわれわれの現實生活に密着せしめて掴みたい、そしてさう云ふものを文藝の中に見出したいといふ要求の續きとして、本能主義とか見神主義とかに行かうとしたりして、遂に自然主義に到達したのである。自然主義は云ふまでもなく現實の生活を基礎として、出来るだけわれわれの知識の届く範圍で最後に眞に到達しやうとする傾向である。それが文藝の上に現はれて客觀的描寫とか、獸性的描寫とか、個人主義とか、現實暴露とか、無解決とかいふ

提唱になつたのである。そこで島崎藤村は「破戒」を書き、田山花袋は「蒲團」を書き、國木田獨步は「牛肉と馬鈴薯」「運命」等を書いた。又評論家としては島村抱月、岩野泡鳴、長谷川天溪、中澤臨川等がこれを主張し、説明し、研究して、それが文藝思潮全面にわたつた一大運動となり、こゝに始めて三十年來の懸案であつた人生と藝術との間の空虚が取り除かれて、眞のわれわれの生活に密着して、即ち深い意義のある文藝に行く第一歩が確められた。

そして小説には夏目漱石、正宗白鳥、永井荷風、谷崎潤一郎その他續々として新しい人が現はれた。

しかし、これらの中には初めから自然

主義とは違つた方向へ趣いた人もあり、また自然主義以外の、違つた方向に趣かうとする人々も含まれてゐる。神秘主義、象徵主義、享樂主義等の名が漸く一般に唱へられ、又前記以外更に若い幾多の作家を出して、明治の四十五年は終つてゐるのである。

自然主義が、現實の生活を基礎とする點に於ては今後永久の最有力者であると共に、その人生觀に於て促へ得たと思へた點が、絶望となり、あきらめとなり、刹那的生活となつたのには幾多の不満足がある。この人生觀の立ち場から自然主義は變すべき理由を有してゐる。そしてそれは大正以後の問題として残されたのである。

明治文學の時期

第一期

舊文學の餘光……新文學の曙光時代

明治初年から同十八九年にいたる

第二期

明治文學の建設期

明治二十年から同三十年にいたる

第三期

理想主義と寫實主義の對立期

明治三十年から同三十七八年にいたる

第四期

自然主義時代

明治三十七八年から同四十五年にいたる

同人協會叢書

常識としての

産兒制限の話

一昨年サンガー夫人の來朝以來急に世間の注
意を惹き、社會各方面の痛切な問題となりつ
ある産兒制限に就て述べたる書

定價一部二十錢 送料二錢

普通選舉問題

社會改革の第一歩として一般民衆は政治運動
に向ひつゝある時、「普通選舉」の理論やその概
念を述べたる書

定價一部十錢 送料二錢

同人協會

總發行所五五八一九

同人協會叢書

百島すゑ著

戀愛の徹底化

戀愛問題の解決者の一人として女性を忘
却してはならぬ。女性である本書の著者は
戀愛問題を如何に説明し、如何に解釋せん
とするか

宣傳用一部十錢 送料二錢

トルストイの

勞働論

宣傳用一部十錢 送料二錢

同人協會

總管大阪五五八一九番

高級石版印刷 土井栢林堂

大阪市東區鶴井町二丁目
(電話東三六八六番)

あなたは編物を

なさいますか？

編物は御婦人として知らねばならぬ家庭の仕事となりました。編物をなさるには毛糸の御選擇が第一でございます、親切第一を標語として勉強するゼネラル毛糸店は總ての用途に適當な染色の變らぬ編工合のよい各種の毛糸を豊富に取揃へて、あなたの御選擇を待つて居ります。

ゼネラル毛糸店

大阪市東區今橋二丁目
電話本局二二二七番五三九一番

眼科一般

診察 午前及夜間

大阪市東成區鶴橋警察南隣

生 田 庚 寅

大軌鶴橋停留場南一丁目
市電細工谷停留場東五丁目

292
466

概観明治文學史 {定價金十錢
送料金二錢}

大正十五年二月二十日印刷
大正十五年二月廿五日發行

著作發行印刷者

同人協會代表

小原一宏

大阪市住吉區天王町二一七三

發行所

同人協會

大阪市天王寺町阿部野女學校西

番替大阪五五八一九番

診察每日午前、但、日曜、祭日の外
院長診察、月、木、金午前及木、午後六時
林、峰間両副長は目下當院に在勤
東京麴町區三番町二〇(市ヶ谷驛前の上)

電話 四谷二七二九番
三三六八番

東洋内科醫院

院長 醫學博士 高田 畊安

電話 二番南 湖 院

神奈川縣茅ヶ崎海濱(從茅ヶ崎驛半里)

河野、高橋兩副長は目下當院在勤

院長診察、土曜日午後、入院診後應需

診察、毎日午後、但、日曜、祭日の他

◎ 募看護婦志願者及雜事婦

7/2
44

概観明治文學史 {定價金十錢} {送料金二錢}

大正十五年二月二十日印刷
大正十五年二月廿五日發行

著作發行印刷者
同人協會代表

小 原 一 宏

大阪市住吉區天王 町二一七三

發 行 所

同 人 協 會

大阪市天王寺町阿部野女學校西

振替大阪五五八一九番

診察毎日午前、但、日曜、祭日の外
院長診察、月、木、金午前及木、午後六時
林、峰間兩副長は目下當院に在勤
東京麴町區三番町三〇(市ヶ谷驛前の上)

電話 四谷二七二九番
三三六八番

東洋内科醫院

院長 醫學博士 高田 畊安

電話 二番南 湖 院

神奈川縣茅ヶ崎海濱(從茅ヶ崎驛半里)

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院診後應需

診察、毎日午後、但、日曜、祭日の他

◎ 募看護婦志願者及雜事婦

75110

862

他に宗教叢書既刊十七種

同人協會叢書

1	トルストイ労働論	10 銭
2	戀愛の徹底化	10
3	常識としての産兒制限の話	10
4	普通選挙問題	10
5	婦人参政権運動	10
6	婦人と職業問題	10
7	近世思想概観	10
8	トルストイ禁酒論	10
9	日本と太平洋問題	10
10	現代藝術の諸相	10
11	世界反動運動概観	10
12	短歌の趣味	10
13	思想に対する婦人の自覚	10
14	水平運動概観	10
15	社会主義の主張	10
16	家族制度問題	10
17	トルストイ菜食論	10
18	農村問題の話	10
19	性的道徳の革命	10
20	結婚の過去及び現在	10
21	産業革命の史的考察	10
22	日本民謡選集	10
23	トルストイ宗教観	10
24	花袋蒲團物語	10
25	啄木名歌選	10
26	明治名詩選	10
27	レニソ	10
28	マルクス	10
29	ドストイエフスキ	10
30	クロボトキン	10
31	牛肉と馬鈴薯	10
32	概観明治文学史	10

同人協會發行

(振替大阪五五八一九番)

發
びす
行
小
賣
部
所

同
大
阪
市
住
吉
區
天
寺
町
二
一
七
三
阿
部
野
女
學
校
西
及
び
す
停
留
所
北
半
丁
東
側
(
日
本
橋
筋
五
丁
目
)

終